

こんな材料で「いい家」と言えるのか

写真Aは、高級住宅地の新築工事現場で使われていた床材である。東京の、ある大学の教授宅のものだ。写真をよく見ていただきたいのだが、この床材（フローリング）は、何とボール紙でできている。表面には厚さ〇・二ミリ程度の化粧突き板が張られているものの、その下はボール紙で、さらにその下が合板（ベニヤ）となり、それからまたボール紙になっている。

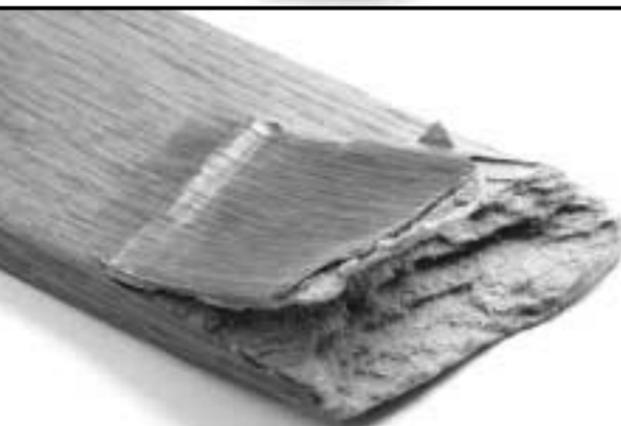
この建物を建てていた住宅メーカーは東証一部株式上場会社だが、その現場で使われている床材がこれである。立派な肩書きを持った建築主が、一流メーカーに発注した「いい家」の実態である。

写真Bは、紙を芯にして表面にビニールを張った幅木^{はばき}である。幅木とは、床と壁との見切りに使う部材の名称だ。幅木という呼び名の通り、本来は木を使う部分であるが、今ではこのような紙やビニール、合板が使われている。

この家の建築主も、一流住宅メーカーに依頼したことを自慢していた。その方も一流大学出身だ。家づくりに学歴は関係ないのだが、物の本質が見えないことについて、少しばかり皮肉を込めて書いてみたのだ。



A
ボール紙とベニヤでできた床材



B
紙とビニールでできた幅木



C
木くずを薬品で固めた枠材

写真Cは、廃材の木を薬品で溶かして分解し、再度、薬品を加えて圧縮して、表面に木に似たプリントシートを張った枠材である。MDFとか、パーティクルボードといった、木くずを薬や接着剤で固めたものである。これが今、建築の大きな流れである。

このような材料で「いい家」と言えるのだろうか！

ビニールクロス張りの家が「いい家」なのか

ビニールクロスは石油から作られる化学製品で、価格が非常に安い。壁も天井もこうした素材で張って仕上げた家が、果たして高級な家、いい家と言えるのだろうか。ビニールクロスという壁装材がこの三〇〜四〇年の間に急速に普及し、壁や天井の内装材として主流を占めてきた。建売住宅だけでなく、住宅メーカーも町の工務店も、部屋の仕上げ材として、たいがいこのビニールクロスを使っている。インテリアコーディネーターと内装の打ち合わせをするときに、建築主に提示される素材のサンプルも、ほとんどがビニールクロスである。

ビニールクロスは実に種類が豊富だが、何かに似せて作られているものが多い。例えば、和室の京壁に似せたクロスがある。本物の塗り壁は土や珪藻土を混ぜて、左官屋がコテで仕上げるも

のだから、完全に別物だ。コルクに似せたビニールクロスもある。本物のコルクとは全く違い、見た目の味わいも調湿作用もない。

ビニールクロスは、石油が原料なので、何にでも似せて作ることができ、しかも安く大量に生産できる。施工も簡単で、このビニールクロスの裏に糊を一回塗って張るだけだ。とにかく、小ざれいに安く速くできるので、爆発的に広がっていった。こんな便利なものはないように思われてきた。

ところが、七、八年前、このビニールクロスに大きな問題が発生した。ビニールクロスの裏に塗る糊に大量に含まれているホルムアルデヒドが原因で、住む人の健康が損われる事例があちこちで顕在化したのだ。その対応策として施工会社は、他の薬品の入った糊に替えていったが、その替えた糊にも石油化学製品の接着剤が使われているため、人体への危険性が心配されているのである。

問題は糊だけではない。ビニールクロスは石油からできたプラスチック製品で、軟らかくするために可塑性を入れてある。その可塑性が、あのビニール独特の臭いの原因となり、それからも揮発性ガスが発生しているのである。

ビニールクロスとは、何かに似せて石油から作られた安物の材料だ。壁、天井などの内装仕上

げ材として、これ以上安上がりの材料はない。こんな材料を使って建てた家が、高級な家とは言いがたいし、「いい家」とはとても言えない。では、このビニールクロスに代わる、「いい家」の名にふさわしい材料があるのか。

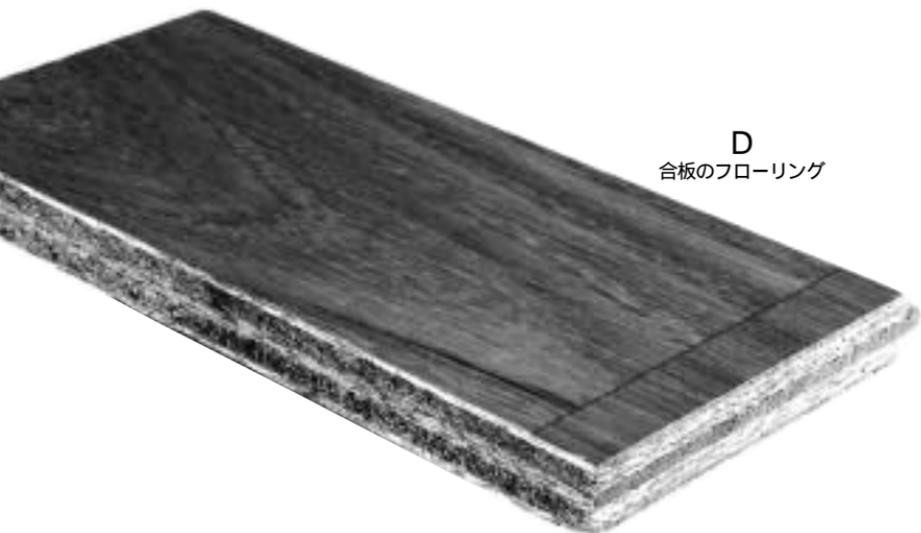
そこで、ご紹介できるものが漆喰である。これは、五〇〇〇年もの歴史を持つ、優れたものである。私も二〇年ほど使っているが、漆喰は自然素材で調湿作用を持ち、人の体にもやさしい。詳しくは後に述べることにする。

合板フローリングの床で、「いい家」と言えるのか

薄い板を接着剤で重ね張りした合板の床材が、高級な製品、いい材料と言えるだろうか？

写真Dは、合板のフローリングである。合板とは読んで字のごとく、木を薄くスライスして接着剤を塗り、何枚も重ねて合わせたものである。断面でその様子が分かる。近年建てられている家の床は、街の工務店から、名の知れた住宅メーカー、さらに設計事務所が設計した家までも、ほとんどがこの合板の床材だ。

この合板の床材を見ると、伸び縮みが大変少なく、反りが来ない、表面にごく薄いナラ材など



D
合板のフローリング



E
ナラの無垢材のフローリング

の突き板を張り、見た目にも美しくしてある。しかし、「この表面の化粧材はしっかり接着剤で張ってあるので、はがれないから大丈夫」と言われても、「だからこの床材は信頼の置ける高級品だ」とは誰も思わないであろう。

写真Eは、ナラの無垢材のフローリングである。無垢材かどうかは断面を見れば分かる。無垢材は自然の木なので、伸び縮みするが、それこそ生きている証拠である。多少の反りやすき間が生じるのは自然なことなのに、それを欠陥と捉えること自体がおかしいのだ。木は生きているから呼吸し、湿度の調節もしてくれるから伸縮する。触れても温かい。

無垢の木でできた優れたフローリングが存在するというのに、合板の床材を使っている家を、「いい家」と呼べるだろうか。

合板は合板でしかない。そこには石油製品の接着剤が大量に使われている。ホルムアルデヒドの揮発量が基準値内に収まったとしても、代替の薬品がどれだけ人体に安全かはまだ明確に保障されていない。それが解明されるには時間がかかるだろう。人の健康に害を及ぼす不安のある材料で造られている家で、毎日安心して過ごせるとは、私には思えない。床はすべて本物の木、無垢のフローリングを使ってこそ、本物の家、いい家と言えるのだ。

集成材や米ツガの土台にビツクリ

アパート、倉庫、建売住宅など、ローコスト建築の土台には、昔から米ツガが使われてきた。最近では、集成材の土台も増えている。湿気の多い場所にある土台に、接着剤を多用した集成材を使うとは驚きである。

柱に集成材を使う世の中になってから、ずいぶん年数が経つ。それでもいい家なら、土台にはヒノキを使っている。しかし、建売住宅やメーカー住宅では、防腐剤を注入した米ツガの土台が使われている。米ツガ材はアメリカから安く大量に輸入されているマツ科の木である。木に油分が少なく、木肌がパサパサしている。あまり生気のない木で、湿気や腐りに弱い。白アリに食べられやすい木であることは、大工だけでなく、少し建築が分かる一般の人々にもよく知られている。米ツガの土台には、湿気や白アリ対策のために、防腐剤を注入する。これは安普請の家づくりの常套手段である。

今では米ツガどころか、土台に集成材を使っている。思わず、「マジ？」と聞き返したくなる。白アリに比較的強い米ヒバを使っているのだから、一本の無垢の土台として使えばいいものを、わざわざ小片を接着剤で張り合わせた集成材にする。その集成材を家の土台に使うとは。湿気に

さらされて接着剤がどうなるのか、心配である。

誇りを持ってしている大工職人なら、このような材料は決して使わない。良心的な工務店なら、土台には無垢のヒノキか栗を使う。これは昔から「いい家」の常識とされている。白アリに非常に強い青森ヒバも、土台にはうつてつけの木であるが、本州の北の果てから関東まで木を運ぶ道が整っていなかった時代には、関東ではほとんど使うことのできない特殊な木であった。青森ヒバは無理でも、せめて土台にヒノキを使うのが、いい家を建てようとする人の良識ともいえる。

「専門家」の言うことを鵜呑みにしてはいけない

近頃、白っぽい木の集成材が、あまりにも多く使われている。これは北欧から輸入されている白い松、通称ホワイトウッドの集成材である。住宅メーカーや建売住宅会社の下で実際に工事を行っている大工が、「こんな集成材を使って、いつまで家が持つのだろうか」という話をしているほどである。このような、木肌に艶もなく、木としての生気もない材料を使って、果たして大丈夫なのだろうか。

ハッキリ言う。「どうしてこんな悪い材木で家を建てるの?」。建築主がホワイトウッドの集成

材を使ってくれと指定したのだろうか。そうではないだろう。住宅メーカーの勧めるままに決めてしまったのではないだろうか。住宅メーカーは、「集成材は無垢の木より丈夫でいいものだ」と勧めるからだろうか。

ホワイトウッドは北欧の乾燥した気候で育った木である。ドイツトウヒ、スウェーデンスプルース、ロシアエゾマツなどと同種の木で、日本のような高温多湿の国で土台や柱に使えるような木ではない。実際の木を見れば、素人の方にも容易に想像がつくだろう。

無垢のヒノキとホワイトウッドの集成材を見て、どちらが良質のものか分からない人が多い。一級建築士など建築の専門家の中にも、自分で物を見て感じようとしなない人が多い。素人に近いように思う。住宅メーカーの人たちも、利益を上げることについてはプロであるが、家を造ることにおいては素人に近いかもしれない。

しかし、一番の問題は消費者の側にある。油分も艶もなく、力のない木を接着剤で固めた材料を見て、何とも思わない感性。そんな材料で建てる家に大金を投じる感覚。

メーカーの看板を信じ、営業マンの言葉を鵜呑みにする。一級建築士の資格を持つ専門家や権威ある建築家を信じる。皆、集成材は良いと言っている。しかし、自分の目で、実物を見て確かめたことはあるのだろうか。でき上がった家しか見ていないのではないだろうか。こんな危険な